

2022. 7. 29 「若者とともに進める参加型運動」キックオフイベント

＼ 2022連合アクション ／

# 若者とともに進める参加型運動

The needs and expectations of young people

JTUC  連合

日本労働組合総連合会

# 2022連合アクションとは？

すべての働く人にとって“必ずそばにいる存在”となる運動の構築



① 政策実現に向けた世論形成をはかるための共感型運動

② 「05(れんごう)の日」におけるオール連合型運動

③ 社会運動希求層とともに進める参加型運動

社会運動に参加意向があってもできていない10代・20代層の思いを受け止める運動を進める

= 若者とともに進める参加型運動

目的

2022～2023年度運動方針で掲げた第17期連合運動の基軸である「新しい運動スタイル」の構築に向け、若者の視点も取り入れ、多くの若者が参加する運動をめざす

具体的な取り組み3本柱

# 多様化する社会運動を調査

2021年、多様化する社会運動と人々の意識について、2,000名にモバイル調査。社会運動の方法を9つの類型に区分し、参加経験や参加意欲などを聞いた。

オフライン中心

## デモンストレーション型

デモ行進や街頭宣伝行動など

例：労働組合のデモ（世論喚起や抗議行動など）、フラワーデモ、プライドパレード、グローバル気候マーチなど



ハラスメントに関する国際条約の支持と批准を求める請願デモ(2019年5月、国会前)。

## 自筆署名型

請願等のために手書きの署名を集める、手書きの署名を行う

例：核兵器廃絶1000万署名や高校授業料無償化署名など



「核兵器廃絶1000万署名」を日本政府に提出(2020年12月、外務省にて)。

## シンボル型

バッジを付ける、マークのある商品を買うなど

例：パープルリボン、レインボーリボン、フェアトレード、SDGs等



シトラスリボンプロジェクト(コロナ禍による差別、偏見、誹謗中傷をなくし、思いやりがあり、誰もが安心して暮らしやすいまち(地域)、社会をめざす運動)。

## 金品支援型

募金活動を行う、金銭や物品を寄付する

例：子ども食堂やフードバンク、生活困窮者への金銭的支援など



連合富山のフードドライブ。家庭で余っている食品を持ち寄り、福祉団体などに寄付。

## ボイコット型

抗議行動としての商品の不買、イベントの不参加、サービスの拒否など

例：児童労働製品の不買運動、人種差別容認企業のサービス拒否など



国際労働組合総連合(ITUC)などは、ミャンマー軍事政権の孤立化のため、その収入源となる所有企業や関連するあらゆる取引などについて、各国政府・企業に圧力をかけることを各国の労働組合に要請している。

オンライン中心

## #ハッシュタグ型

SNSで#〇〇とつけてリツイートやシェアなど拡散する

例：#MeToo、#検察庁法改正案に抗議します、#BlackLivesMatterなど



2019年6月に国際労働機関(ILO)でハラスメントに関する国際条約を採択。背景には#MeToo運動の広がりがあった。

## パフォーマンス型

話題になるよう行動する

例：医療従事者に感謝の拍手を、アイスバケツチャレンジなど



連合が長年取り組んでいる「ストップ! 児童労働」キャンペーンで、レッドカードを掲げて意思表示(2018年5月、連合会館にて)。

## ネット署名型

Change.orgなどネットで署名を集める、ネットで署名を行う

例：ブラック校則撤廃署名、女性差別発言に対する抗議署名など



長い歴史を持つ「核兵器廃絶1000万署名」もネットでもできるようになった。

## クラウドファンディング型

インターネットを介した寄付と賛同を通じて支援する

例：社会運動を行う団体やNGO・NPOに寄付することにより活動を支援



連合が2019年に開設した「ゆにふあん」。クラウドファンディングも含め、労働組合やNGO・NPOによる「支え合い 助け合い」活動をサポートしている。

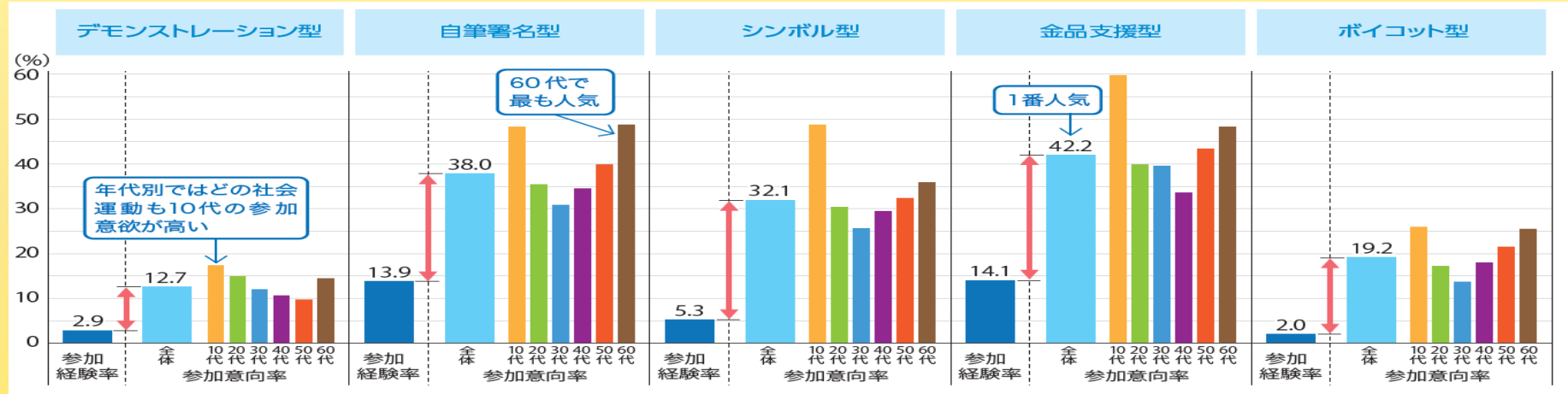


# ≪ Z世代の関心が高い ≫ ことが明らかに

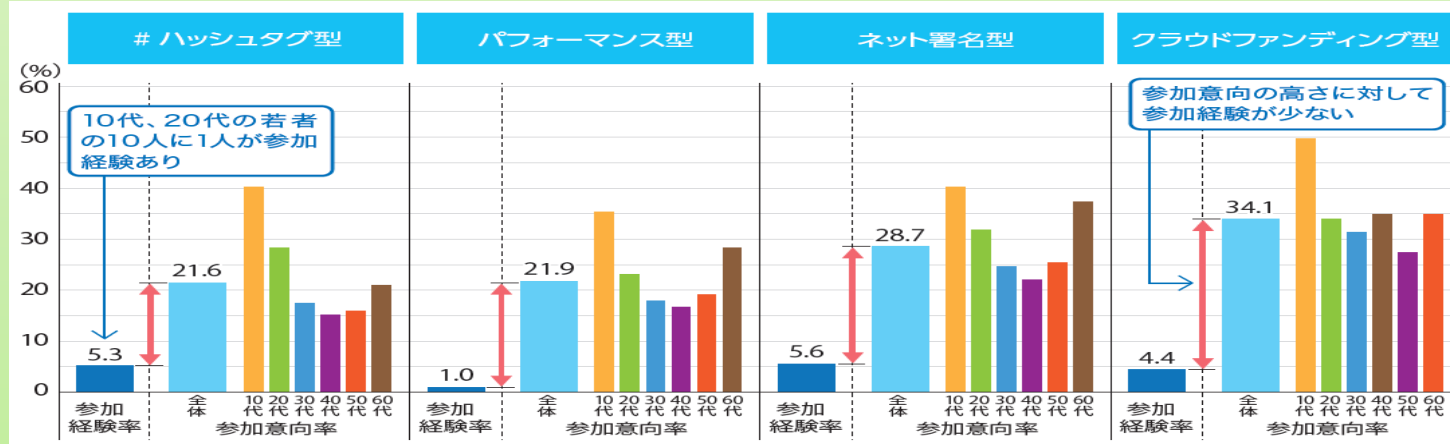
10代の7割、20代の5割強が社会運動に参加したいと回答。しかし、その多くが実際の参加には至っていない。

＝ **社会運動希求層**

オフライン中心

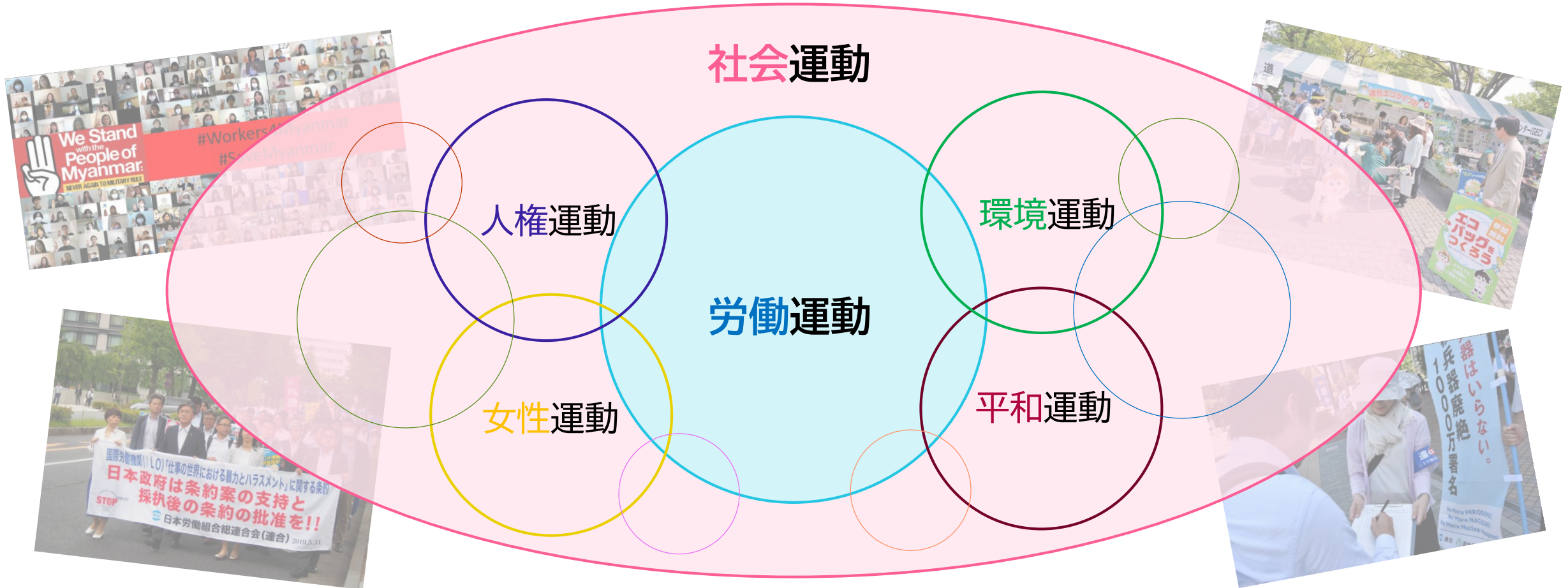


オンライン中心



# 社会運動と労働運動とは？

社会運動とは、社会問題の解決や社会の制度や仕組み等の改善を目的として行われる運動。組合活動（労働運動）の多くが社会運動に重なり、労働運動は社会運動の代表格と言える。



## ＼ 若者ととともに進める参加型運動 ／ これまでの取り組み

① Z世代が考える社会を良くするための社会運動調査2022

(2022年3月公表)

② 座談会「Z世代×社会運動×労働組合」

(月刊連合2022年3月号掲載)

③ 構成組織・地方連合会の次世代を担う若者との意見交換

(2022年2月～4月実施)

整理

## 「若者ととともに進める参加型運動の考え方」

(2022年6月中央執行委員会確認)

# ① Z世代が考える社会を良くするための社会運動調査2022

15歳から29歳までのZ世代を中心とする一般の若者1500人にモバイル調査（2022年3月公表）

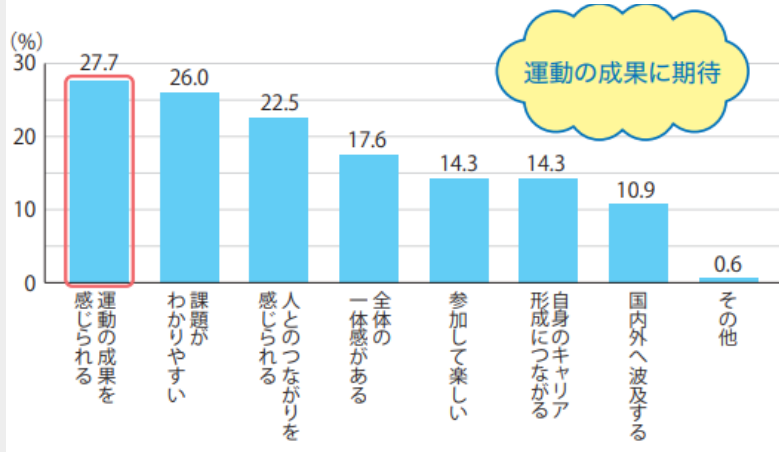
## 社会課題

約9割が関心がある

「身近」な課題に関心が集まる

関心トップ「社会人Z世代」は「長時間労働」  
「学生Z世代」は「ジェンダー」

## これからの社会運動に期待すること



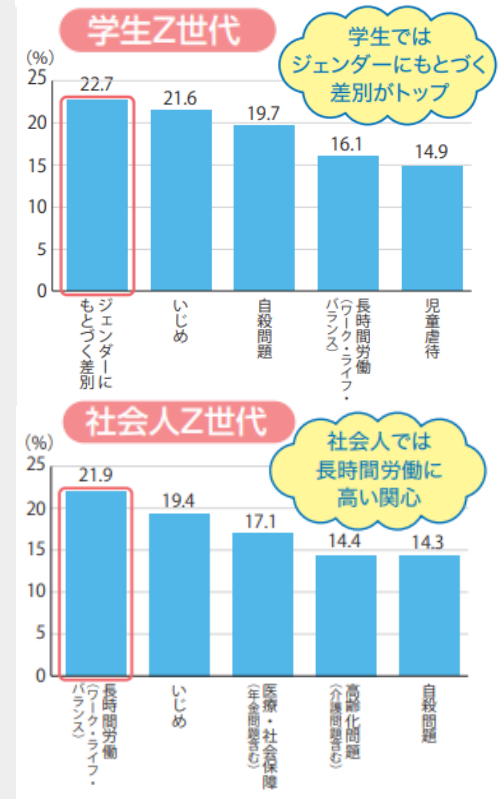
## 社会運動

3人に1人が参加経験あり

「集会やデモ」などを忌避

「成果」と「わかりやすさ」を期待

## 関心のある社会課題



## ②座談会「Z世代×社会運動×労働組合」

調査結果を受けて、社会運動を牽引する若者、社会運動の研究者と意見交換（月刊連合2022年3月号）



富永京子 とみなが・きょうこ  
立命館大学産業社会学部准教授

調査から読み解く

- 🔍 今の若者は貧困や格差が自らの課題
  - ➡️ 身近で当事者性の高い課題に関心が集まる
- 🔍 日本のデモは動員型で対話が乏しい
  - ➡️ 忌避感につながる



室橋祐貴 むろはし・ゆうき  
日本若者協議会代表理事



西良朋也 にしら・ともや  
一橋大学社会学研究科博士課程

労働運動への期待

- 🤝 労働問題は当事者性が高い
  - ➡️ 対話を通して身近な問題を解決
  - ➡️ 成果をアピール
  - ➡️ 労働組合は『頼れる存在』に



谷口歩実 たにくち・あゆみ  
#みんなの生理共同代表



### ③ 構成組織・地方連合会の次世代を担う若者との意見交換

調査結果や有識者の考察を踏まえて、構成組織・地方連合会の次世代を担う若者計126名と「新しい労働運動スタイル」のあり方について意見交換（2022年2月～4月実施）

若者から見た  
労働運動の課題

世代間に溝？ 若者の感覚に合っていない？  
一方通行？ 難しい？ 目的不明？  
理解されていない？  
専門用語が多い？ デモは怖い？  
周知不足？ 身近でない？  
休日が無くなる？ 動員で嫌々？  
楽しくない？ 成果が見えない？

労働組合は「**人とのつながり**」「**対話**」が重要！

だからこそ

若者に共感される  
工夫を

気軽に楽しく参加で  
イメージアップも

労働運動を  
知る・学ぶ機会を

成果や意義を  
感じられるものに

SNSの活用で  
若者とのつながりを





身近な存在、  
頼れる存在に

# ＼若者ととともに進める参加型運動／の考え方






調査結果や意見交換を踏まえ、若者へのアプローチ方法などの「考え方」を整理

## 次世代を担う若者の「理解・共感・参加」が得られる運動を

### アプローチの前提となる基盤整備

-  若者が意見を反映しやすい環境の実現
-  SNSによる積極的な発信
-  若者に対する労働運動の理解促進
-  地域・学校と連携した次世代を担う若者への労働運動の理解活動

### 労働運動のイメージアップ

-  運動目的の明確化と周知
-  参加方法の多様化と参加感の醸成
-  エンターテインメント要素の導入
-  わかりやすい言葉と学べる工夫
-  運動の経過・成果の適宜共有

# アプローチの前提となる基盤整備とは？

■ = 具体的な取り組み例

若者の意見を反映しやすい環境の整備とともに、労働運動の理解促進をはかる



## 若者が意見を反映しやすい環境の実現

<若者の違和感の解消、ニーズを知る工夫を>

- 若者が企画運営に参加できる仕組みの構築や、定期的なヒアリングの実施。

<世代間の溝を埋め、若者に共感される工夫を>

- 年の近い世代によるサポート体制。
- 若者のチャレンジや困りごとを支援。



## SNSによる積極的な発信

<SNSの積極的な活用で、多くの若者に刺さる発信を>

- SNSの特徴と目的を踏まえた現ツールの精査と発信。
- 検索されやすい工夫(話題の#ハッシュタグ付与など)。



## 若者に対する労働運動の理解促進

<若者の疑問に答える取り組みを>

- セミナーなどを通じた理解促進。
- 動画など学習器材の作成と発信。



## 地域・学校と連携した次世代を担う若者への労働運動の理解活動

<身近な労働運動で、気づけば知っている存在に>

- 労働組合イベントへの子どもたちの参加促進。
- 働くことやワークルールを学ぶ機会の提供。
- 社会貢献活動などを通じた「頼れる存在」に。

# 労働運動のイメージアップとは？

■ = 具体的な取り組み例

より多くの人理解・共感・参加できるように、運動のあり方を工夫する



## 運動目的の明確化と周知

<目的の明示で、運動の価値・重要性の理解促進を>

- 目的の明確化と見せ方の検討。
- 目的と意義の発信・周知(SNS等での事前発信など)。



## 参加方法の多様化と参加感の醸成

<多様な参加方法の提供と、参加感を得られる工夫を>

- 多様な参加方法による参加者数の増大。
- 参加方法によらない双方向コミュニケーションの実現。



## エンターテイメント要素の導入

<「楽しむ」ことができる企画づくりを>

- プライベートでも参加したいと思える工夫。
- 対象となる層に応じた取り組みの検討。



## 運動の経過・成果の適宜共有

<フィードバックで、参加意欲の向上を>

- 運動継続の重要性やゴールなどを明示。
- 小さな成果でも動きがあればフィードバック。



## わかりやすい言葉と学べる工夫

<わかりやすい言葉遣いと、学びにつながる運動を>

- 運動の中で必要な知識が学べる工夫。
- 簡潔明瞭で要点を絞った情報提供。

# キックオフイベントでの工夫

キックオフイベントでも、「若者ととともに進める参加型運動の考え方」を踏まえ、実践的な運動にチャレンジしています！



## 運動目的の明確化と周知

- 「考え方」の共有と今後の取り組みの周知など、イベントの目的を明確にしています。



## 参加方法の多様化と参加感の醸成



## エンターテイメント要素の導入



## わかりやすい言葉と学べる工夫

- リアルとオンラインでの参加と、話題のスポット・地域での開催で「参加してみたい」と思わせる工夫を行っています。
- コーヒーブレイク会場を用意し、参加者の交流の場を設けています。
- 相互通信ソフトによる双方向コミュニケーションで、学び考える機会を提供します。



## 運動の経過・成果の適宜共有

- このイベント自体を、皆さまへの経過・成果報告の場としています。



# 若者ととともに進める参加型運動 / 今後の予定

キックオフ

7.29 「若者ととともに進める参加型運動」 イベント

以降、連合本部・構成組織・地方連合会が連携し  
◆ 「考え方」の共有  
◆ 好事例・先進事例の展開  
を推進

2023

具体的な取り組みの中で  
若者ととともに進める参加型運動を展開

実践的な運動に  
チャレンジと  
検証・評価

2022～2023年度運動方針  
第17期連合運動の基軸

「新しい運動スタイル」に若者の視点も

次世代を担う若者の「理解・共感・参加」で

持続可能な労働運動と明るい未来へ

日本労働組合総連合会  
Japanese Trade Union Confederation

